

展覧会スケジュール

平成30年

4

4月14日(土)～6月10日(日)

「越中瀬戸焼—桃山から現代へ—」

4月14日(土)～6月10日(日)

収蔵作品展

5

6

6月16日(土)～7月29日(日)

「絵画で国立公園めぐり

—巨匠が描いた日本の自然—」

7

8

8月4日(土)～9月24日(月・祝)

「ガラス工芸の今
—GEN作品展」(仮称)

9

10

10月6日(土)～11月25日(日)

第33回風景の会絵画展
「瀬戸を描く」

11

12

12月1日(土)～2月17日(日)

「東京国立近代美術館工芸館名品展
多彩なる近現代工芸の煌き」

平成31年

1

2

2月23日(土)～3月24日(日)

収蔵作品展

3

平成30年4月14日(土)～6月10日(日)

せとものフェスタ2018・瀬戸市美術館特別展

「越中瀬戸焼—桃山から現代へ—」



《黄瀬戸釉香炉》

蓮王寺蔵 延宝6年(1678)
富山県指定文化財

瀬戸は、千年余りの間やきものを生産し続けた陶都です。その永い歴史の中で、様々な地域に影響を与えてきました。加賀藩の御用窯であった越中瀬戸焼もそのうちのひとつと考えられます。本展では、初現となる桃山期の窯跡の資料をはじめとして現代に至るまでの越中瀬戸焼を展示し、その魅力をご覧ください。

平成30年6月16日(土)～7月29日(日)

平成29・30年度市町村立美術館活性化事業

第18回共同巡回展 小杉放菴記念日光美術館所蔵

「絵画で国立公園めぐり

—巨匠が描いた日本の自然—」

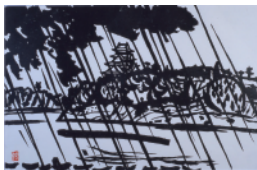


北川民次《八幡平》昭和32年(1957)

柳政道《鳥城雨》昭和53年(1978)

平成30年4月14日(土)～6月10日(日)

瀬戸市美術館常設展示
収蔵作品展



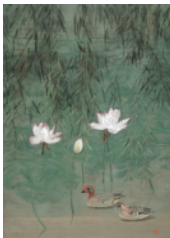
柳政道《鳥城雨》昭和53年(1978)

休館日：4/9～13、5/8、6/11～6/15、7/10、7/30～8/3、8/14、9/11、9/25～10/5、10/9、11/13、11/26～11/30、12/11、12/28～1/4、1/8、2/12、2/18～2/22、3/11、3/12、3/25～4/19

平成30年10月6日(土)～11月25日(日)

瀬戸市制施行89周年記念/瀬戸市美術館特別企画展

第33回風景の会絵画展「瀬戸を描く」



松井和弘《蓮池》
平成23年(2011)

風景の会とは、東海地方の日本画・洋画・版画作家が所属団体を越えて昭和61年(1986)に結成した団体です。その活動は中部地方にとどまらず、結成15周年の平成12年(2000)には、北方四島を画題として全国4会場で展覧会を開催しています。更に、平成5年(1993)には、愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞しています。33回目となる本展では、瀬戸をテーマとして描いた作品を展示します。

平成30年12月1日(土)～平成31年2月17日(日)

瀬戸市美術館特別展

「東京国立近代美術館工芸館名品展

多彩なる近現代工芸の煌き」



藤井達吉
《胸切透七宝巻雲紋手箱》
大正9年(1920)

日本の工芸品は明治時代に欧米で熱狂的な支持を受けました。そして、大正時代においてはその技術を受け継ぎつつも、個性を尊重する作品制作が行われるようになりました。本展では、近代から現代の日本工芸の代表的な作品を所蔵する東京国立近代美術館の珠玉の名品約114点を展示します。

平成30年8月4日(土)～9月24日(月・祝)

瀬戸市美術館特別展

「ガラス表現の今

GEN—ガラス教育機関—作品展」

2018年は、瀬戸市でGAS(Glass Art Society)カンファレンスを開催してから20年の節目の年になります。本展では、これを記念し、GEN参加機関の教職員、学生及び近年の卒業生たちの作品約100点を展示し、日本の現代ガラス工芸、これからのガラス工芸の可能性を示します。



北川民次《陶器を作る人々》昭和34年(1959)